



能登町の歴史と伝統を知る

350年以上の歴史を誇る「久田和紙」の紙すきと出来上がった和紙を使ったうちわ作りを体験。縄文時代の遺跡である国指定史跡真脇遺跡や江戸時代から受け継がれてきた伝統芸能「彌樂太鼓」も見学するなど、能登町の歴史と伝統を学びました。

能登町の自然を感じる

星の観察館「満天星」で美しい星空を眺める観望会を実施。シュノーケリング体験や箱メガネを使った磯観察で能登の海の豊かさ・美しさを体験しました。



Interview 今回の経験を災害への備えに生かしたい

被災地の様子を自分の目で見たいと思い参加しました。実際に目にした能登は道路が崩れたり家屋が倒れたりしていて、半年以上経ってもまだまだひどい状況でした。

そうした中でも現地の中学生たちは笑顔で出迎えてくれ、おもてなしがうれしく、楽しかったです。雑談の中で、震災の体験談などを聞くこともできました。

出発前には宮崎でも大きな地震がありました。自分も改めて災害に対する備えを考え、今回の経験を友達にも伝えたいです。



小林中学校3年
いわせ そうま
岩瀬 蒼真 さん

Interview 来年も参加して能登の中学生を迎えたい

やったことのない、いろいろな経験ができた4日間でした。特にシュノーケリング体験では、能登の海の美しさや自然の豊かさを体感できました。

まだまだ大変な状況にも関わらず、中学生や地域の人に優しくしていただき、どこに行っても笑顔で温かく迎えていただきました。能登の人たちはすごいと思います。

来年も交流事業に参加して、今度は小林で能登町の中学生を迎えたいです。能登町にもまた行ってみたいと思います。



三松中学校1年
たなか ゆづき
田中 柚葵 さん

別れ

最終日は別れを惜しむ様子も。来年小林市で再会することや、能登町を再び訪れることなどを約束し、別れました。



絆は次世代へ

さまざまな体験や活動を通じ友情を育んだ生徒たち。約30年にわたり世代を越えて紡がれてきた姉妹都市の絆は、次世代を担う子どもたちに引き継がれました。

小林市・能登町 中学生姉妹都市交流事業

絆を紡ぐ



姉妹都市として友好を深めるため、平成8年から毎年交互に中学生の使節団を派遣してきた小林市と石川県能登町。今年は能登半島地震の影響で開催が危ぶまれていましたが、能登町側の受け入れ準備が整ったことで、8月18日から21日にかけて市内の中学生15人が友好使節団として同町を訪問。現地の中学生や地域の人々との交流を通じ、同町の歴史や文化、そして人の温かさに触れた3泊4日の旅となりました。

使節団は、能登町の小・中学生へ向けた市内小・中学校5校から応援の横断幕や手紙を持って同町を訪問。能登町役場で行われた式典では、代表して野尻中学校からの応援の横断幕が能登町の生徒に手渡されました。

能登町の中学生を勇気づけた おこづかい募金



昨夏に能登町の中学生と交流した生徒たちの発案で、能登半島地震発生直後に市内小・中学校で実施された「おこづかい募金」。集まった約139万円は市を通じて全額能登町へ送られました。

今回の交流では、能登町の中学生から募金へのお礼のメッセージが届きました。そこには、「復興に向けてがんばっていきます」、「復興に向けて能登町も私もがんばります」、「小林でなにかあったら次は僕たちが支援します」、「震災で元気が出なかったけど、みんなの支援で元気が出ました」など、たくさんの感謝の言葉や想いが綴られていました。



災害について学ぶ

初日は東京都の防災体験学習施設「そなエリア東京」で事前学習を実施。2日目は津波による大きな被害を受けた白丸地区を見学し、被害の爪痕を目の当たりに。3日目の小木中学校との交流では、同校生徒が制作した「防災カルタ」で防災の知識を高めました。

